

2020年度 所員の研究・社会的活動報告

Research Reports 2020

(2020年4月1日～2021年3月31日)

氏名・専門領域	跡部 千慧 ●労働と家族の社会学, ジェンダー研究
論文	跡部千慧 (2021) 「出産後の継続就労をめぐる戦後女性教員史の考察——日教組婦人部育児休業法制化運動と保育所設置運動に着目して」『立教大学ジェンダーフォーラム年報』第22号, pp.61-67 立教大学.
資料・研究ノート等	1) 跡部千慧 (2020) 「コロナ恐慌 今こそ求められる『働き方改革』」『WORK LIFE しずおか』第33号, pp.10-11 公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会. 2) 跡部千慧 (2021) 「コロナ禍の今、なぜ『男性育児義務化』なのか」『WORK LIFE しずおか』第34号, pp.10-11 公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会.
学会発表	1) 跡部千慧, 木村育恵, 村上郷子, 河野銀子, 田口久美子, 池上徹, 井上いずみ, 高野良子 (2020) 「教員育成指標によって教員の働き方はどう変わるのか——教職におけるジョブ・ディスクリプションの課題」国際ジェンダー学会2020年大会個人発表, 和洋女子大学 (オンライン), 9月. 2) Atobe, C., 2021, “Who Supported the Career Development of Japanese Highly Educated Women?: Focus on Social Division of Women between Elementary School Teachers and House Wives In Tokyo between the 1970s and 1980s.” the IV ISA Forum of Sociology, Brazil (Virtual), 2月.
学内・学外における社会的活動等	1) 跡部千慧 (2020) 「山梨から戦後女性労働史を考える——A 大学教育学部卒業生のライフヒストリーを事例として」甲府の朝活・得々三文会, 山梨 (オンライン), 6月 2) 跡部千慧 (2020) 「出産後の就労継続をめぐる戦後女性教員史——育児休業要求運動と保育所設置運動を事例として」第81回ジェンダーセッション, 立教大学 (オンライン), 11月 3) Atobe, C., 2021, “Basic course of Gender Studies”, Gender-Giraffism: the Association for discussing Gender issues with compassion, Tokyo (Virtual), 1月-3月 4) 跡部千慧 (2021) 「キャリアと生き方を考えるワークショップ『私、このままでいいの?』」一般社団法人ワークライフバランス東海, 愛知 (オンライン), 3月 5) 跡部千慧 (2021) 「第13回就活女子会 番外編～大学教授と話してみた～」みらい女子プロジェクト, 東京 (オンライン), 3月

氏名・専門領域	飯村 史恵 ●権利擁護論, 福祉マネジメント論
論文	1) 飯村史恵 (2020) 「成年後見制度の課題と今後の方向性: 求められるパラダイムシフト (特集 成年後見制度と行政)」『都市問題』第10号 (111), pp.57-66 後藤・安田記念東京都市研究所. 2) 飯村史恵 (2020) 「社会福祉における身元保証問題: 高齢者の施設入所・病院入院に焦点を当てて」『コミュニティ福祉研究所紀要』第8号, pp.1-17 立教大学.

学会発表	飯村史恵 (2020)「関係性の観点から『権利』を問う意義—成年後見制度を超えて—」日本地域福祉学会第34回大会, 兵庫, 6月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 練馬区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定評価・推進委員 2) 練馬区社会福祉協議会権利擁護センター運営委員会及び成年後見制度利用促進協議会副委員長 3) 埼玉県社会福祉法人認可等及び介護老人保健施設審査委員会委員 4) 新宿区社会福祉協議会第三者委員, 情報公開・個人情報保護審査会委員 5) 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画権利擁護部会会長 6) 志木市成年後見制度利用促進審議会副会長 7) 立川市社会福祉協議会地域あんしんセンターたちかわ運営委員 8) 救護施設あかつきオンブズマン 9) 社会福祉法人共働学舎オンブズマン, 評議員選任・解任委員会委員 10) 日本福祉介護情報学会理事 11) 特定非営利活動法人自律支援センターさぼーと理事 12) 特定非営利活動法人福祉の資料と情報代表理事 13) 社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会評議員 14) 社会福祉法人ベタニヤホーム監事, 苦情解決第三者委員, 評議員選任・解任委員 15) 社会福祉法人芙蓉会第三者委員 16) 科研究費研究(基盤C)「関係性の観点から捉え直す『権利擁護』研究—成年後見制度を超えて—」研究代表者19K02251

氏名・専門領域	石渡 貴之 ●環境生理学, 脳神経科学, 発育発達
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) Daisuke Matsunaga, Hikaru Nakagawa, Takayuki Ishiwata*, Difference in the brain serotonin level and anxiety-like behavior in rats between forced and voluntary exercise conditions, Neuroscience Letters, 744, 135556, 2021. (*Corresponding author). 2) Yuta Kaneda, Akira Kawata, Kota Suzuki, Daisuke Matsunaga, Mikinobu Yasumatsu, Takayuki Ishiwata*, Comparison of neurotransmitter levels, physiological conditions, and emotional behavior between isolation-housed rats with group-housed rats, Developmental Psychobiology, 63, 452-460, 2021. (*Corresponding author).
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Hikaru Nakagawa, Daisuke Matsunaga, Takayuki Ishiwata, Changes in brain monoamine levels in the hippocampus and physiological indices in heat-acclimated rats during heat exposure. Federation of European Neuroscience Societies 2020 Virtual Forum, 2020年7月. 2) Daisuke Matsunaga, Hikaru Nakagawa, Takayuki Ishiwata, Difference in the brain serotonin level and anxiety-like behavior in rats between forced and voluntary exercise conditions. Federation of European Neuroscience Societies 2020 Virtual Forum, 2020年7月.
学内・学外における社会的活動等	<p>【社会的活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本体力医学会 評議員 2) 日本生理学会 評議員 <p>【研究活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文部科学省科学研究費 基盤研究C 研究代表者「自発運動が社会的隔離ストレス下の生理指標, 脳内神経伝達物質, 情動行動に及ぼす影響」(2017-2020) 2) 文部科学省科学研究費 基盤研究B 分担研究者(研究代表者: 東京大学大学院 東郷史治)「交代制勤務による内的脱同調と心身の変調の因果性及びその神経行動学的基盤の解明」(2018-2020) 3) 文部科学省科学研究費 基盤研究C 研究代表者「暑熱環境下での体調管理

学内・学外における社会的活動等	<p>に関する神経生理学的アプローチ」(2020-2022)</p> <p>【シンポジスト】</p> <p>1) 慶應義塾大学体育研究所・(公社)全国大学体育連合関東支部共催シンポジウム「コロナ禍のオンライン体育実技を振り返る～今後の遠隔実技のあり方と共に～」</p> <p>発表タイトル:「コロナ禍の立教大学全学共通科目「スポーツ実習の工夫」～「スポーツスタディ e」の新設,「オンライン授業用スタジオ教室の設定」～」</p>
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

氏名・専門領域	大石 和男 ●健康心理学, スポーツ心理学
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (2020) "Sensory processing sensitivity moderates the relationships between life skills and depressive tendencies in university students." <i>Japanese Psychological Research</i>. DOI:10.1111/jpr.12289 (査読有). 2) 嘉瀬貴祥, 上野雄己, 島本好平, 大石和男 (2020) 「高いSense of Coherenceを持つ者の日常生活における問題への対処にかかわる行動や思考の特徴: 計量テキスト分析による質的検討」『ストレス科学研究』第35号, https://doi.org/10.5058/stresskagakukenkyu.2020001 (査読有). 3) 坂内くらら, 遠藤伸太郎, 上野雄己, 大石和男 (2020) 「演奏時に生じる主観的あがり反応と実力発揮度の関係」『音楽知覚認知研究』第26号 (1), pp.3-15 (査読有). 4) Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (2020) "The associations between sensory processing sensitivity and the Big Five personality traits in a Japanese sample." <i>Journal of Individual Differences</i>. 42 (2), pp.84-90 (査読有). 5) Yano, K., & Oishi, K. (2021) "Replication of the three sensitivity groups and investigation of their characteristics in Japanese samples." <i>Current Psychology</i>. DOI: 10.1007/s12144-021-01537-6 (査読有). 6) Kimura, S., Yano, K., & Oishi, K. (2021) "Does mealtime communication improve happiness? Considering the trait of shyness." <i>Japanese Psychological Research</i>. https://doi.org/10.1111/jpr.12304 (査読有).
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Yano, K., Endo, S., & Oishi, K. (2020) "The effect of sensory processing sensitivity on agari experience in Japanese college athletes." The 2020 Yokohama Sport Conference JAPAN, W04-P093, September 2020. 2) 矢野康介, 大石和男 「感覚処理感受性の程度に基づく大学生の類型化」日本心理学会第84回大会, PB-006, 2020年9月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2018年4月～2020年3月: 科研費基盤研究C「感覚処理感受性に着目した抑うつ低減モデルの構築—将来的な自殺予防に向けて—」 2) 2019年4月～: 国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センターとの共同研究「里地里山体験を通じたESD」, 「小・中学校における新型コロナウイルス感染防止対策に伴う児童生徒の緊急実態調査」等

氏名・専門領域	川村 岳人 ●社会福祉学
著書	川村岳人 (2021) 「ソーシャルワーカーと法」山口光治編『権利擁護を支える法制度』みらい.
論文	川村岳人 (2021) 「大規模公営住宅団地のサロン活動を拠点にした福祉コミュニティの創造」日本福祉大学博士論文.
学会発表	川村岳人 (2020) 「公営住宅団地における自治会の活動への参加頻度に関連する要因—入居者の主観的な意識に着目して」第34回日本地域福祉学会, 6月.

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本地域福祉学会 第12期地方委員 (大分県) 2) 大分県 ひとり親と困難な生活環境にある子どもの支援計画策定委員会 副委員長 3) 調布市 第10期地域福祉推進会議 委員 4) 中津市 地域福祉計画策定委員会 副委員長 5) 社会福祉法人大分県社会福祉協議会 地域福祉推進委員会 委員 6) 社会福祉法人大分県共同募金会 評議員
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

氏名・専門領域	奇二 正彦 ●環境教育, 野外活動
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 奇二正彦 (2021)『植物が楽しい山』株式会社エイ出版社. 2) 奇二正彦 (2021)『執筆：山登りの基本のステップアップ』ピークス株式会社.
論文	濁川孝志, 奇二正彦, 嘉瀬貴祥 (2021)「霊性 (スピリチュアリティ) を醸成するためのツールの研究」『コミュニティ福祉学部紀要』23巻, pp.35-51 立教大学.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2020年9月「講座：昭和こども園自然観察会」主催：昭和こども園 2) 2020年10月「講演：人も地球も健康であるために、都会でもできる自然体験のススメ」主催：NowDo inc 3) 2020年10月「講座：ザ・パークハウス桜坂サンリンヤンにおけるコミュニティ形成のための生物多様性モニタリング」主催：三菱地所株式会社・ForC Company Ltd. 4) 2020年11月「講演：環境問題は自分で解決！誰でもできる4つの活動」主催：NowDo inc

氏名・専門領域	木下 武徳 ●福祉政策
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 木下武徳 (2020)「福祉政策の機能」岩崎晋也, 金子光一, 木原活信編『社会福祉の原理と政策』ミネルヴァ書房. 2) 木下武徳 (2021)「生活困窮者自立支援制度」渋谷哲編『(改訂) 貧困に対する支援』みらい.
資料・研究ノート等	木下武徳 (2021)「市町村向けアンケート調査結果」『地域における意思疎通支援の実態に関する調査研究事業報告書』全日本ろうあ連盟, pp.66-104.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本社会福祉学会総務担当理事 2) 貧困研究会運営委員など

氏名・専門領域	空閑 厚樹 ●生命倫理学, 持続可能な福祉コミュニティ
論文	空閑厚樹 (2021)「『荒野の40年』から考える新しいコミュニティ形成の課題」『コミュニティ福祉学部紀要』第23号, pp.1-17 立教大学.
資料・研究ノート等	空閑厚樹 (2021)「いのちへの配慮とコミュニティ」『シンビオーシス』第93号, pp.10-13 NGO地に平和.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員 2) 小川町第5次総合振興計画審議会委員 3) Global Ecovillage Network Japan 副代表

氏名・専門領域	後藤 広史 ● 貧困・ホームレス問題, 生活困窮者の自立支援
著書	後藤広史(2020)『地域生活の継続における民間支援団体の役割』山田壮志郎編「ホームレス経験者が地域で定着できる条件は何か—パネル調査からみた生活困窮者支援の課題」ミネルヴァ書房.
学内・学外における社会的活動等	1) 社会福祉学会機関誌査読委員 2) 貧困研究会運営委員・事務局 3) 岩手県社会福祉研修講師 4) 埼玉県社会福祉士会自立支援専門員事業委員会公開研修講師 5) 社福) 特別区人事厚生事務組合社会福祉事業団 理事 6) 認定NPO法人「山友会」理事

氏名・専門領域	権 安理 ● 公共哲学, 社会哲学, 公共空間論
論文	権安理(2020)「リノベーション研究序説—ハンナ・アーレントから考えるリノベーションの意味—」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第8号, pp.19-34 立教大学.
資料・研究ノート等	権安理(2020)「『ひとり』論—アーレントによるsolitude, isolation, loneliness区分からの試論—」『まなびあい』第12号, pp.183-187 立教大学コミュニティ福祉学会.
学内・学外における社会的活動等	1) 立教大学コミュニティ福祉学会事務局長 2) 立教大学コミュニティ福祉学部FD委員長 3) 関東地区大学教育研究会幹事

氏名・専門領域	重田 史絵 ● 福祉サービス評価, 障害福祉
資料・研究ノート等	特定非営利活動法人全国精神障害者地域生活支援協議会(2020)『精神障害者における就労継続支援B型事業実態調査報告書』「Ⅲ章 結果 3), 4), 5)」pp.29-52.
学会発表	1) 重田史絵, 高橋秀人(2020)「福祉事業所におけるWHODAS2.0を用いた支援効果の疫学的評価」第79回日本公衆衛生学会総会, 京都(オンライン), 10月. 2) Takahashi, H., Otaga, M., Shigeta, F. (2020) “Applying the ICF framework to specify outcomes in antipoverty program in Japan.” WHO-FIC Network Meeting, Bangkok (online), 10月. 3) 高橋秀人, 大冨賀政昭, 重田史絵, 田宮菜奈子(2020)「国際生活機能分類(ICF)に基づく社会統計の特徴化—生活のしづらさ調査を例に—」第79回日本公衆衛生学会総会, 京都(オンライン), 10月. 4) 高橋秀人, 大冨賀政昭, 重田史絵(2021)「アウトカム指標として国際生活機能分類(ICF)を用いた福祉領域に関する文献研究」第31回日本疫学会学術総会, 佐賀(オンライン), 1月. 5) 高橋秀人, 大冨賀政昭, 重田史絵(2021)「福祉領域におけるICFを用いた評価の確立に関する研究」第9回厚生労働省ICFシンポジウム, 東京(オンライン), 2月.
学内・学外における社会的活動等	【研究協力】 1) 「障害福祉サービス事業所における利用者視点のケア評価の検討」社会福祉法人生活クラブ 2) 「地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類(ICF)による多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究」厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)分担研究班, 協力研究者 【委員活動等】 1) 国立保健医療科学院 協力研究員

学内・学外における社会的活動等	2) (公財) 東京都福祉保健財団 東京都福祉サービス評価推進機構 アドバイザリースタッフ 3) 東京都福祉サービス第三者評価 評価者 4) 特定非営利活動法人みなづき会(就労継続支援B型事業所) 理事 5) 日本リハビリテーション連携科学学会 社会リハビリテーション研究会 幹事 6) 経営行動研究学会 幹事
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

氏名・専門領域	芝田 英昭 ●社会学, 社会保障論
著書	1) 芝田英昭 (2020)「人権としての社会保障構築に向けて」日本婦人団体連合会編『女性白書2020』ほるぷ出版. 2) 芝田英昭 (2020)『検証：介護保険施行20年～介護保障は達成できたのか』自治体研究社.
論文	1) 芝田英昭 (2020)「社会保障における『自己責任』の本質と目的」『コミュニティ福祉研究所紀要』第8号, pp.35-51 立教大学. 2) 芝田英昭 (2020)「『全世代型社会保障への転換』の目指す方向と展望」『隔月刊社会保障』No.488, pp.4-14 中央社会保障推進協議会. 3) 芝田英昭 (2021)「全世代型社会保障の本質に迫る～自助・共助・公助型社会保障の欺瞞」『隔月刊社会保障』No.495, pp.2-13 中央社会保障推進協議会. 4) 芝田英昭 (2020)「今、求められる社会&医療のパラダイムシフト～介護分野の『生産性向上論』と『専門性』のジレンマ～」『保険診療』No.1571, pp.21-25 医学通信社. 5) 芝田英昭 (2020)「介護保険の根源的な課題とこれからを見通す」『住民と自治』通巻698号, pp.8-12 自治体問題研究所. 6) 芝田英昭 (2020)「自己責任を助長する全世代型社会保障政策を撤回し、安全・安心の地域医療を」『医療労働』No.643, pp.2-8 日本医療労働組合連合会.
資料・研究ノート等	1) 芝田英昭 (2020)「医療保険における一部負担の根拠 (6回連載)」『大阪歯科保険医新聞』No.1371～1377, 大阪府歯科保険医協会. 2) 芝田英昭 (2020)「健康は自己責任なのか」『埼玉保険医新聞』第579号, p.3 埼玉県保険医協会. 3) 芝田英昭 (2020)「医療保険の『一部負担』を再考し、未来を展望する (1)」『埼玉保険医新聞』第580号, p.6 埼玉県保険医協会. 4) 芝田英昭 (2020)「医療保険の『一部負担』を再考し、未来を展望する (2)」『埼玉保険医新聞』第582号, p.6 埼玉県保険医協会.
学会発表	芝田英昭 (2020)「医療保険『一部負担』の根拠を追う」第141回社会政策学会大会, zoom形式, 10月.
学内・学外における社会的活動等	【学内】 1) 立教大学体育会弓道部：部長 【学外】 1) 日本医療福祉政策学会：会長 2) 自治体問題研究所：副理事長 3) 埼玉県社会保障推進協議会：副会長

氏名・専門領域	杉浦 克己 ●スポーツ栄養学
著書	杉浦克己 (2021)「みんなのスポーツ栄養」『イラストでみる最新スポーツルール'21』pp.16-17, 大修館書店.
論文	1) 杉浦克己 (2021)「健康を支える食のあり方」『Re: Building maintenance & management』42: pp.54-57. 単著.

論文	<p>2) 杉浦克己(2021)「遺伝子ドーピング」『JATI EXPRESS』81号, pp.12-15. 単著.</p> <p>3) 杉浦克己(2020)「ケガの回復と栄養」『JATI EXPRESS』80号, pp.12-16. 単著.</p> <p>4) 杉浦克己(2020)「トップアスリートの栄養サポート」『JATI EXPRESS』79号, pp.10-15. 単著.</p> <p>5) 杉浦克己(2020)「コロナ対策と栄養」『JATI EXPRESS』78号, pp.12-15. 単著.</p> <p>6) 杉浦克己(2020)「ベジタリアンとスポーツ」『JATI EXPRESS』77号, pp.14-17. 単著.</p> <p>7) 杉浦克己(2020)「タンパク質の摂取量」『JATI EXPRESS』76号, pp.14-17. 単著.</p>
学会発表	Katsumi Sugiura (2020) "Taking "The Diet Fitness Course" has a favorable impact on students' body composition." 25 th Annual Congress of the European College of Sports Science, Webinar, 10月.
学内・学外における社会的活動等	<p>【学内】</p> <p>1) 立教大学コミュニティ福祉研究所 所長</p> <p>2) 立教大学ウエルネス研究所 所員</p> <p>3) 立教大学体育会拳法部 部長</p> <p>【学外】</p> <p>1) 株式会社明治 顧問</p> <p>2) 埼玉県新座市 健康づくり推進協議会 副会長</p> <p>3) 埼玉県新座市民総合大学 健康増進学部健康づくり学科 コーディネーター</p> <p>4) (公財)日本バレーボール協会科学研究委員会 ハイパフォーマンス事業本部 ハイパフォーマンスサポート委員会 ニュートリションユニット長</p> <p>5) 日本体力医学会 評議員</p> <p>6) NPO法人日本トレーニング指導者協会 (JATI) 参与</p> <p>7) (公社)日本ボディビル・フィットネス連盟 指導者養成講習会 講師</p> <p>8) (公財)体力づくり指導協会 高齢者体力づくり支援士養成講習会 講師</p> <p>9) 健康経営エキスパートアドバイザー (東京商工会議所)</p>

氏名・専門領域	鈴木 あおい ●精神保健福祉, ソーシャルワーク, 地域生活支援
著書	鈴木あおい, 鹿内佐和子, 渡辺由美子 (2020)「第Ⅲ部 精神保健福祉士業務指針 分野別事例集 地域分野」岩本操, 赤畑淳編『精神保健福祉士業務指針第3版』日本精神保健福祉士協会.
資料・研究ノート等	鈴木あおい (2020)「精神障害者の雇用義務化」岩本操, 赤畑淳編『精神保健福祉士業務指針第3版』日本精神保健福祉士協会.
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 特定非営利活動法人「三鷹陽だまり企画」監事</p> <p>2) 日本精神保健福祉士協会 業務指針委員会 委員</p> <p>3) 特定非営利活動法人メンタルケア協議会 特任相談員</p> <p>4) 東京社会福祉士会自殺予防ソーシャルワーク委員会 委員</p> <p>5) 東京都自殺未遂者対応連携支援事業相談員</p> <p>6) 東京都自殺相談ダイヤル電話相談員</p> <p>7) 科研基盤 (C)「ソーシャルワーク養成課程で自殺予防教育を推進するためのプログラム等の開発研究」(研究代表・小高真美) 拡大ワーキンググループメンバー</p> <p>8) 特定非営利活動法人「三鷹陽だまり企画」共同生活援助事業 非常勤精神保健福祉士</p>

氏名・専門領域	鈴木 弥生 ●社会開発論
論文	Suzuki, Yayoi (2020) <i>A Study on the Background of Bangladeshi Migrant Labourers to the United Arab Emirates</i> , Journal of the Institute of Community and Human Services, Number 8, pp.53-78.
資料・研究ノート等	鈴木弥生「ニューヨークに住むバングラデシュ移民の動向」『みらいぶっく 学問・大学なび』(社会・福祉をよくする：こんな研究をして世界を変えよう～きみはどんな研究や学問に出会えるか) 河合塾。
学内・学外における社会的活動等	1) コミュニティ福祉研究所主催 公開講演会, Ghamra Rifai (Japan International Volunteer Center), <i>Syria, what happened and why it happened: Once-beautiful ancient cities that were my homeland</i> , January 18 2021, 6:00～8:00p.m., Organizer, Suzuki Yayoi. 2) 学術研究助成基金助成金「ニューヨーク市におけるバングラデシュ出身の移民：移民二世代の生活実態調査」(18K11792) 研究代表者：鈴木弥生 (2018年度より継続中)。

氏名・専門領域	田中 悠美子 ●高齢者福祉, 認知症ケア, ヤングケアラー
論文	1) 田中悠美子「若年性認知症の本人・家族・市民協働による地域生活支援」『精神医学』第62巻第11号, pp.1509-1515, 医学書院。 2) 田中悠美子「SNSを活用したソーシャルサポートネットワークづくりに関する研究～若年性認知症の親と向き合う子ども世代と共に～」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第8号, pp.79-90, 立教大学。
資料・研究ノート等	田中悠美子「〈解説〉若年性認知症の実態」『コミュニティケア』第22巻第14号, pp.45-48, 日本看護協会出版会。
学会発表	1) 田中悠美子, 伊藤耕介 (2020)「若年性認知症の親と向き合う子ども世代のつどいの普及活動とその課題—SNSを活動したアクセシビリティに関する一考察—」第21回日本認知症ケア学会, 5月。 2) 吉川和徳, 田中悠美子 (2020)「車椅子の不適合が原因で褥瘡発生したと考えられた1症例—在宅における福祉用具活用相談の重要性について—」第22回日本褥瘡学会学術集会, 9月。 3) 田中悠美子 (2021)「コロナ禍での実践—地域福祉活動の課題と工夫」日本老年臨床心理学会第3回大会シンポジウム, 3月。
学内・学外における社会的活動等	1) 埼玉県市町村総合相談支援体制構築推進部会委員 2) さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会委員長 3) さいたま市地域包括支援センター運営協議会委員 4) 社会福祉法人マザアス 若年性認知症の就労推進プロジェクトチーム委員 5) 社会福祉法人練馬山彦福祉会評議員 6) 一般社団法人福祉用具活用相談センター理事 7) 一般社団法人日本ケアラー連盟理事 8) 若年認知症ねりまの会MARINE代表 9) 豊島区若年性認知症関係者向け講演会講師「若年性認知症の本人・家族の会の活動から相談支援を考える」豊島区役所 (2020年9月14日) 10) 埼玉県ケアラー支援WEBセミナー講師「第6・7回 事例に基づいたケアラーアセスメントの実際」埼玉県庁 (2020年10月27日) 11) 北海道ひまわりの会若年認知症の親をもつ子ども世代のつどい講師「子ども世代のネットワークづくりの必要性 安心して話せる場とは」WEB開催 (2020年11月1日) 12) 豊島区認知症支援講座講師「介護者の心のケア・気持ちの見える化」菊かおる園高齢者総合相談センター (2020年11月24日) 13) 大分県若年性認知症と向き合う子ども世代の講演会講師「子ども・若者ケア

学内・学外における社会的活動等	ラーを支えるとは ～子ども世代のつどいまりねっこの活動から～」WEB開催(2021年2月20日)
	14) 府中市ケアマネジャー等支援研修会講師「ヤングケアラーについて」WEB開催(2021年3月16日)
	15) ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム第1回 ヒアリング「ヤングケアラーの施策・政策提言」厚生労働省(2021年3月17日)
	16) 東村山市認知症ステップアップ講座講師「まち×ひと×認知症ともにつながる東久留米～当事者・家族と共に地域で支えあうためには、何からはじめる?～」東村山市市民ステーションサンパルネ(2021年3月22日)

氏名・専門領域	長倉 真寿美 ●高齢者福祉論, コミュニティケア論
資料・研究ノート等	1) 「拠点Ⅲ石巻」『いのちの尊厳のために一東日本大震災復興支援プロジェクト10年間の記録一』pp.56-68 立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト. 2) 「グループ1 ワークショップ報告」(2020)『まなびあい第13号』pp.21-29.
学内・学外における社会的活動等	1) 豊島区介護保険事業計画推進会議委員 2) 豊島区都市計画審議会委員 3) 豊島区都市づくり専門部会委員 4) 江東区地域福祉計画策定委員会委員長 5) 江東区社会福祉法人地域協議会会長 6) 江東区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定・推進委員会委員長 7) 江東区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定・推進委員会作業部会会長 8) 社会福祉法人至誠学舎立川評議員

氏名・専門領域	西田 恵子 ●社会福祉学, 地域福祉論
学会発表	西田恵子(2020)「LARA救援活動の展開と収集情報の様相—フレンド派を中心に—」日本社会福祉学会, web開催, 9月.
学内・学外における社会的活動等	1) 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「ララ救援物資の形成・配分過程～関与機関・団体の多様性とその帰結～」研究代表者(2018-2021年度) 2) コミュニティ福祉研究所 企画研究プロジェクト1「コミュニティ福祉組織の運営と持続性に関する研究」 3) 高島町地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会委員長 4) 東海村社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会委員長 5) 全国社会福祉協議会 中央福祉学院 社会福祉主事講習「社会福祉概論」 6) 社会福祉学会 関東部会 運営委員 7) 国家公務員採用総合職試験 試験専門委員(2020)

氏名・専門領域	沼澤 秀雄 ●トレーニング科学, コーチング論
著書	沼澤秀雄(2020)『レジャー・レクリエーション用語集』前橋明編著, 坂口正治, 沼澤秀雄監修, 大学教育出版.
資料・研究ノート	1) 沼澤秀雄(2020)「身体活動とレジャー・レクリエーション—トレーニング科学からのアプローチ—」レジャーレクリエーション研究第92号, pp.16-19. 2) 沼澤秀雄, 森健一, 森丘保典(2020)『JAAF 指導者養成指針』日本陸上競技

資料・研究ノート	連盟 指導者養成委員会パンフレット。 3) 沼澤秀雄 (2021) 「どの筋肉を動かしているかを感じよう！見よう見まねを脱却するジュニア年代のストレッチ」サカイック HP コラム。
学会発表	沼澤秀雄 (2020) 「身体活動とレジャー・レクリエーション—トレーニング科学からのアプローチ—」日本レジャーレクリエーション学会 第50回大会 基調講演 東京 11月。
学内・学外における社会的活動等	1) 立教大学 体育会長 2) 日本レジャー・レクリエーション学会 副会長 3) 日本ウエルネス学会 理事 4) 日本陸上競技連盟指導者養成委員会 副委員長 5) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 6) 日本キッズアスレティックス協会理事 7) 大学スポーツライミング協会 副会長 8) 日本陸上競技連盟公認コーチ、指導者講習会講師 9) 日本サッカー協会サッカーアカデミーランニングコーディネーションコーチ 10) 横浜市スポーツ協会 評議員 11) 全国大学体育連合 監事

氏名・専門領域	畠中 亨 ●社会政策, 福祉経済論
論文	1) 畠中亨 (2020) 「『全世代型社会保障』と2020年金制度改正」『労働総研クォーター』No.117, pp.2-9, 労働運動総合研究所。 2) 畠中亨 (2021) 「多様化するライフスタイルと年金問題」『住民と自治』通巻696号, pp.22-23, 自治体研究社。
学内・学外における社会的活動等	1) 社会政策学会幹事 2) 市原市介護保険事業推進協議会委員・会長 3) 市原市地域包括支援センター運営協議会委員・会長 4) 科学研究費助成事業 若手研究「最低賃金の引き上げが高齢者貧困問題に与える影響の実証分析」(研究代表者: 畠中亨, 課題番号: 18K13003) 5) 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽)「福祉の再編を基軸とした次世代型公教育システムの開発」(研究代表者: 末富芳, 課題番号: 18K18668) 6) 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「日本における皆年金体制確立に関する歴史及び財政の検証」(研究代表者: 中尾友紀, 課題番号: 20K02264)

氏名・専門領域	濱田 江里子 ●政治学
著書	濱田江里子 (2021) 「日本の若者政策における『若者問題』—就労支援と複合的な困難の位相」宮本みち子, 佐藤洋作, 宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち—生活保障をどう立て直すか』明石書店。
論文	濱田江里子 (2020) 「知識基盤型経済における社会保障—社会的投資国家の可能性」『思想』第1156号, pp.150-166 岩波書店。*招待あり
資料・研究ノート等	1) 濱田江里子 (2021) 「『孤独対策』という政策課題とイギリスの取り組み」『生活経済政策』第290号, pp.6-10 生活経済政策研究所。*招待あり 2) 玉川透編著, ヤシャ・モンク, ロベルト・ステファン・フォア著, 濱田江里子訳 (2020) 『強権に「いいね」をする若者たち』青灯社。
学会発表	濱田江里子 (2020) 「社会的投資と社会的包摂の接合—若者政策の事例分析を通じて」日本政治学会2020年度研究大会, オンライン開催, 2020年9月26日。

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 上智大学グローバル・コンサーン研究所準所員 2) 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発」(研究代表者: 松田亮三, 課題番号20H01605)
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

氏名・専門領域	原田 晃樹 ●地方自治, 行政学, 非営利組織論
著書	日本地方自治学会編(岡田知弘, 真山達志, 原田晃樹, 野田崇, 澤田道夫, 栗田但馬, 岡田正則, 岩崎忠著)『2040問題と地方自治(地方自治叢書33)』(『社会的価値評価をめぐる非営利組織と自治体の役割』執筆) 敬文堂, 2021年, pp.272 (63-97).
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 原田晃樹「政府・自治体のアカウンタビリティと評価: 新自由主義への対抗軸としてのサード・セクター組織と自治体」『生活協同組合研究』538号, 2020年11月号, pp.5-13, 査読無. 2) 原田晃樹「農山村の活性化の課題: 連帯経済の可能性」『協同の発見』336号, 2020年11月号, pp.19-24, 査読無.
学会発表	原田晃樹「公共の市場化への対抗装置としての自治体公共調達・契約の可能性と課題」社会政策学会秋季大会(オンライン), 2020年10月24日.
学内・学外における社会的活動等	<p>【学内役職】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学サービスラーニングセンター副センター長 2) コミュニティ福祉学研究科前期課程主任 <p>【学外役職】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活クラブ生協神奈川理事 2) 社会福祉法人ふきのとう評議委員 3) 埼玉県共助社会づくり推進委員会委員長 4) 四日市市行政改革推進会議会長 5) 新座市子ども子育て会議会長 6) 新座市総合計画審議会副会長 7) 鎌倉市市民活動推進委員会委員長 8) 豊島区南大塚保育園運営委員会委員 9) 社会的企業研究会運営委員 <p>【学会役職】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自治体学会企画部会委員 2) 日本協働政策学会監事 <p>【研究活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公益財団法人地方自治総合研究所「格差是正と地方自治研究会」委員 2) 科学研究費助成事業(基盤研究C一般)「サード・セクター組織の特性を生かした評価と公契約のあり方に関する日英比較研究」研究代表者(課題番号: 17K04260) 3) 科学研究費助成事業(基盤研究B)「社会的連帯経済の「連帯」を紡ぎ出すものは何か—コミュニティ開発の国際比較研究—」研究分担者(研究代表者: 藤井敦史)(課題番号: 18H00935)

氏名・専門領域	原田 峻 ●地域社会学, 社会運動論, NPO論
著書	原田峻(2020)「おひとり様のデモ参加?—個人化・SNS時代における運動の参加形態」樋口直人, 松谷満編『3・11後の社会運動—8万人のデータから分かったこと』筑摩書房.
資料・研究ノート等	1) 原田峻(2021)「東久留米拠点」立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト編『いのちの尊厳のために—東日本大震災復興支援

資料・研究ノート等	プロジェクト10年間の記録]. 2) 原田峻 (2021)「愛知県と埼玉県における広域避難者支援の比較から」認定NPO法人レスキューストックヤード編『一人ひとりの暮らしに寄り添って——愛知県被災者支援センター10年のまとめ』.
学会発表	原田峻 (2020)「『ロビイングの政治社会学』で問うたもの——社会運動論・政策過程論・NPO論のあいだで」社会運動論研究会2020年12月研究会, オンライン, 12月.
学内・学外における社会的活動等	1) 科学研究費補助金(若手研究(B))「超党派議員連盟と社会運動:ロビイングのイシュー横断的分析」(2017~2020年度, 研究代表者) 2) 科学研究費補助金(基盤研究(B))「社会的連帯経済の『連帯』を紡ぎ出すものは何か—コミュニティ開発の国際比較研究—」(2018~2022年度, 研究分担者) 3) 東海社会学会 理事・研究企画委員(2020年7月~) 4) 地域社会学会 研究委員(2020年12月~) 5) 生活協同組合パルシステム埼玉 東日本大震災復興支援助成金運営委員長(2015年7月~2021年3月) 6) NPO法人埼玉広域避難者支援センター 理事(2016年4月~) 7) NPO法人サーベイ 監事(2019年6月~) 8) 原田峻(2020)「コミュニティ・人とのつながりと避難者支援」東日本大震災支援全国ネットワーク 福島県復興支援員研修, オンライン, 12月

氏名・専門領域	平井 太規 ●社会学(家族・階層・生活時間), 社会調査
学会発表	1) 平井太規(2020)「公的データでみる子育て世帯の家事・育児時間—「社会生活基本調査」政府統計匿名データによる分析—」第71回関西社会学会大会・研究報告(オンライン開催)2020年10月11日. 2) 平井太規(2020)「子育て世帯の余暇時間に関する時系列的推移—「社会生活基本調査」匿名データを用いた基礎的分析—」公的統計マイクロデータ研究コンソーシアムシンポジウム2020共同開催研究集会「官民オープンデータ利活用の動向及び人材育成の取組」(オンライン開催)2020年11月17日.*招待あり
学内・学外における社会的活動等	大阪商業大学JGSS研究センター嘱託研究員

氏名・専門領域	平野 方紹 ●社会福祉行財政, 公的扶助, 障害福祉政策
著書	平野方紹(2021)「福祉政策のニーズと資源」「福祉サービスの供給と利用の過程」松原康雄, 大沢真智子, 蟻塚昌克, 坪洋一編『社会福祉学習双書2021 社会福祉の原理と政策』全国社会福祉協議会.
論文	1) 平野方紹(2020)「全世代型社会保障とは何か—障害福祉に何をもたらすのか—」(単著)『障害者問題研究』第48巻, 第3号(通巻183号), pp.233-239 全国障害者問題研究会. 2) 平野方紹(2021)「社会福祉行政研究私論—福祉改革の当事者的検討—」(単著)『コミュニティ福祉学部紀要』第23号, pp.71-86 立教大学コミュニティ福祉学部. 3) 平野方紹(2021)「視点 これからの社会福祉の展望II 障害福祉サービスはどうなるのか—2021年報酬改定とコロナ禍で—」(単著)『月刊福祉』第104巻, 第5号, pp.48-51 全国社会福祉協議会. 4) 平野方紹(2021)「2021年障害サービス等報酬改定が福祉経営に問うものは

論文	何か—その方向性と特徴—(単著)『経営協』第449号, pp.19-23 全国社会福祉法人経営者協議会.
資料・研究ノート等	平野方紹(2021)「ボランティア論—知ること、考えること、行動すること—コロナボレーション科目であることの意義—」(単著)『大学研究フォーラム』第26号, pp.90-93 立教大学全学カリキュラム運営センター.
学会発表等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 厚生労働科学研究(令和2年度障害者総合福祉推進事業)「国立病院機構が運営する病院の療養介護(筋ジストロフィー病棟)利用者の地域移行に関する実態調査」検討委員 報告書(2021年3月). 2) 厚生労働科学研究(令和2年度障害者総合福祉推進事業)「障害者支援のあり方に関する調査研究—グループホーム、地域生活支援の在り方—」検討委員 報告書(2021年3月). 3) 厚生労働科学研究(令和2年度障害者総合福祉推進事業)「自治体及び障害福祉サービス事業所等における事務負担削減に関する調査研究」検討委員 報告書(2021年3月).
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学ボランティアセンター長 2) 厚生労働省障害福祉サービス等報酬改定検討チームアドバイザー 3) 厚生労働省障害者総合支援法対象疾病検討会副会長 4) 介護福祉士国家試験委員会副委員長 5) さいたま市障害者政策委員会委員長 6) さいたま市地域密着型サービス運営委員会委員長 7) さいたま市社会福祉法人設立認可等審査委員会委員 8) 川越市社会福祉審議会委員(児童福祉専門分科会・子ども・子育て会議会長) 9) 新座市障がい者施策委員会委員長 10) 志木市地域自立支援協議会会長 11) 全国社会福祉協議会福祉サービスの質向上推進委員会委員(苦情解決委員会委員長) 12) 社会福祉法人全国社会福祉事業団協議会評議員

氏名・専門領域	藤井 敦史 ●社会的連帯経済, コミュニティ開発
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 藤井敦史「社会的連帯経済と若者支援」宮本みち子, 佐藤洋作, 宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち—生活保障をどう立て直すか』明石書店, pp.145-162, 2021年3月発行. 2) M.ボルトン(藤井敦史, 大川恵子, 坂無淳, 走井洋一, 松井真理子訳)2020『社会はこうやって変える』法律文化社.
学会発表	藤井敦史『『民営化=私営化』ではなく『市民営化』へ?』, 社会政策学会テーマ別分科会「公共の市場化と対抗運動」コメント, 2020年10月24日.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会的企業研究会会長 2) NPO法人アジア太平洋資料センター(PARC)理事 3) 市民セクター政策機構理事 4) 生協総合研究所評議員

氏名・専門領域	松尾 哲矢 ●スポーツ社会学, スポーツプロモーション論
著書	松尾哲矢(2020)「スポーツ選手のライフコース」井上俊, 菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論[改訂版]』ミネルヴァ書房.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 中山健二郎, 松尾哲矢(2020)「高校野球にまつわる「物語」の再生産に関するメディア・テキスト分析:「完投型」から「継投型」への変化に着目して」『年報体育社会学』第2号, pp.1-17 (一社)日本体育学会体育社会学専門領域.

論文	2) 中山健二郎, 松尾哲矢 (2020) 「高校野球文化に対する解釈枠組の揺らぎに関する実証的研究」『レジャー・レクリエーション研究』第91号, pp.33-44 日本レジャー・レクリエーション学会.
資料・研究ノート等	1) 松尾哲矢他 (2020) 「[座談会] 体育からスポーツへー「(公財) 日本スポーツ協会」の名称変更から考える」『スポーツ評論』第42号, pp.18-35 創文企画. 2) 松尾哲矢 (2020) 「スポーツ実施率向上を支える施策とスポーツ推進委員の役割—中長期的施策の全体像—」『みんなのスポーツ』No.463, pp.12-14 (公財) 全国スポーツ推進委員連合. 3) Masahiro NAKAMURA, Tetsuya MATSUO (2020) “An Empirical Research on Relationship Building Between People With Disabilities and Without in Wheelchair Softball in Japan.” The 2020 Yokohama Sport Conference, Yokohama, 9月. 4) 松尾哲矢他 (2020) 「スポーツ界での暴力行為などを生む土壌、それらを改善するために取り組むこと」『Sport Japan』No.342, pp.40-47 (公財) 日本スポーツ協会.
学内・学外における社会的活動等	1) スポーツ庁 スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト (SRIP) フォローアップ評価委員会 委員 2) スポーツ庁 スポーツエルカンパニー選考委員 3) 東京都スポーツ振興審議会 会長 4) 東京都港区スポーツ推進計画検討委員会 委員長 5) (公財) 日本スポーツ協会指導者育成専門委員会 委員 6) (公財) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度検討プロジェクト 座長 7) (公財) 日本スポーツ協会指導者育成専門委員会 スポーツ指導者育成事業推進プロジェクト 座長 8) (公財) 日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会 研究班員 9) (公財) 日本スポーツ協会国際交流専門委員会 委員 10) (公財) 日本レクリエーション協会 理事 11) (公財) 日本レクリエーション協会公認指導者資格認定委員会 委員 12) (一社) 日本体育学会 代議員 13) 日本スポーツ社会学会 編集委員会委員 14) 日本レジャー・レクリエーション学会 理事 15) 日本スポーツ産業学会 理事 16) 東京体育学会 理事 17) スポーツ庁受託事業 公益財団法人日本レクリエーション協会 「「運動部活動改革プラン」～スポレク部の創設の取り組み～」有識者会議委員長

氏名・専門領域	松山 真 ●ソーシャルワーク理論, 医療ソーシャルワーク
学内・学外における社会的活動等	【学内】 1) 総長補佐 (災害対策・支援担当) 2) 東日本大震災復興支援本部本部長 3) 陸前高田サテライト長 4) 新座キャンパス活性化プロジェクト長 5) コミュニティ福祉学部復興支援プロジェクト長 【学外】 1) 陸前高田グローバルキャンパス機構長 2) キャリアコンサルティング技能検定試験問題作成委員 3) 下妻市未来戦略会議座長 4) 千代田区高齢者・障害者虐待防止推進会議委員 5) 陸前高田市『まち・ひと・しごと総合戦略会議』委員 6) 日本保健医療社会福祉学会査読委員

氏名・専門領域	丸山 晃 ●障害者福祉, 福祉マネジメント
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 丸山晃監修(2020)『障害者総合支援法とは…(改訂第3版)』東京都社会福祉協議会. 2) 丸山晃(2020)「報告者へのコメント」『自粛生活中の障がいのある人たちにICTができること(障がいサブユニット緊急企画シンポジウム報告書)』, pp.13-14, 東洋大学福祉社会開発研究センター. 3) 丸山晃(2021)「介護分野の人材育成と学習支援」『多様化する介護ニーズに即した介護福祉士の専門性の更なる高度化・キャリアアップ促進に向けた調査研究事業報告書〔認定介護福祉士養成研修「マネジメントに関する領域」学習コンテンツ〕』, pp.26-47, 認定介護福祉士認証認定機構.
学会発表	丸山晃(2021)「福祉専門職と社会福祉学教育」(大会シンポジウム「社会福祉学教育と専門職養成」:シンポジスト)日本社会福祉学会関東地域ブロック2020年度研究大会, オンライン, 2021年3月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 東京都福祉人材対策推進機構専門部会委員 2) 港区障害者地域自立支援協議会副会長 3) 港区地域保健福祉推進協議会委員 4) 世田谷区自立支援協議会委員 5) 板橋区福祉有償運送運営協議会副会長 6) 練馬区障害者計画懇談会副座長 7) 朝霞市地域福祉計画推進委員会委員 8) 朝霞市地域福祉活動計画推進委員会委員 9) いたばし総合ボランティアセンター運営委員会委員長 10) いたばし総合ボランティアセンターのあり方検討委員会委員長 11) 東京社会福祉士会理事・副会長 12) 日本社会福祉士会選挙管理委員会委員 13) 日本社会福祉士会学会運営委員会委員 14) 特定非営利活動法人しあわせなみだ監事 15) 公益社団法人杉並区成年後見センター苦情解決委員 16) 社会福祉法人世田谷ボランティア協会第三者委員 17) 東洋大学福祉社会開発研究センター客員研究員

氏名・専門領域	安松 幹展 ●運動生理学, フットボールサイエンス
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) Tanabe Y, Shimizu K, Kondo E, Yasumatsu M, Nakamura D, Sagayama H, Takahashi H. (2021) "Urinary N-terminal fragment of titin reflects muscle damage after a soccer match in male collegiate soccer players", <i>J. Strength. Cond. Res.</i> Feb 1;35(2), pp.360-365. 2) Omuro T, Iso Y, Tobita A, Hirose S, Ishizaki S, Sakaue K, Yasumatsu M. (2020), "Physical match performance of Japanese top-level futsal players in different categories and playing positions", <i>Biol. Sport</i>, https://doi.org/10.5114/biolsport.2020.96322. 3) Kaneda Y, Kawata A, Suzuki K, Matsunaga D, Yasumatsu M, Ishiwata T (2020), "Comparison of neurotransmitter levels, physiological conditions, and emotional behavior between isolation-housed rats with group-housed rats", <i>Develop. Psychobiol.</i>, https://doi.org/10.1002/dev.22036.
資料・研究ノート等	安松幹展(2021)「サッカーの科学的トレーニング6 高校生年代における新型コロナウイルス禍でのコンディショニング」『2020高校サッカー年鑑』(公財)全国高等学校体育連盟サッカー専門部編, pp.230-231.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本体力医学会評議員 2) 日本フットボール学会会長 3) 日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会「スポーツ活動中の熱中症予

学内・学外における社会的活動等	<p>防に関する研究」研究班員</p> <p>4) 国立スポーツ科学センタースポーツ・医科学事業研究分担者</p> <p>5) アジアサッカー連盟フィットネスコーチインストラクター</p> <p>6) (公財)日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー</p> <p>7) (公財)埼玉県サッカー協会科学研究委員会委員</p> <p>8) 関東大学女子サッカー連盟理事</p>
-----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

氏名・専門領域	山口 綾乃 ●文化と多様性, 社会的包摂, パブリックヘルス, グローバルヘルス, ヘルスサイエンス, コミュニケーション
論文	<p>Srirangarajan, T., Oshio, A., Yamaguchi, A., & Akutsu, S. (2020). Cross-Cultural Nomological Network of Gratitude: Findings from Midlife in the United States (MIDUS) and Japan (MIDJA), <i>first published in Frontier in Psychology</i>.</p> <p>This paper is shown on the webpages of University of Michigan at Ann Arbor, University of Wisconsin-Madison, Pennsylvania State University, National Institute on Aging, and National Institute of Health (NIH). Cited this paper <i>from Frontier Psychology into BMJ Psychiatry</i> (Impact factor 3.2-3.4 ranges)</p>
学会発表	<p>1) Yamaguchi, A., Srirangarajan, T., Oshio, A., Akutsu, S., & Kim, M.S. (2020). The Dual Upward Spirals of Gratitude, Sympathy, and Satisfaction with Life. <i>National Communication Association Virtual Event (Indianapolis, IN), Japan-US Communication Association, US.</i></p> <p>2) Yamaguchi, A., Kim, M.S., Srirangarajan, T., Oshio, A., & Akutsu, S. (2020). The Dual Upward Spirals of Gratitude, Sympathy, and Satisfaction with Life in Japan, Poster accepted for presentation at <i>the 32nd Association for Psychological Science (APS Impact Factor 7.0) Annual Convention, May 21-24, 2020, in Chicago, USA.</i> This convention was cancelled by the Covid 19.</p> <p>3) Akutsu, S., Yamaguchi, A., Kim, M.S., Srirangarajan, T., & Oshio, A. (2020). Longitudinal Changes in Psychological Well-Being of Middle-Aged Individuals in the United States: A Growth Curve Model, Poster accepted for presentation at <i>the 32nd Association for Psychological Science (APS Impact Factor 7.0) Annual Convention, May 21-24, 2020, in Chicago, USA.</i> This convention was cancelled by the Covid 19.</p> <p>4) Srirangarajan, T., Oshio, A., Yamaguchi, A., & Akutsu, S. (2020). Cross-cultural nomological network of gratitude: Findings from midlife in the United States (MIDUS) and Japan (MIDJA). Poster accepted for presentation at <i>the Society for Affective Science</i>. This convention was cancelled by the Covid 19.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>【Research Awards and Contributions】</p> <p>1) 独立行政法人日本学術振興会審査委員</p> <p>2) National Communication Association (NCA) Paper Reviewer 論文審査委員</p> <p>3) 国際共同研究：共著者, リーダー University of Hawaii at Manoa, Min-Sun Kim, Hitotsubashi University, Satoshi Akutsu, and Waseda University, Atsushi Oshio to use the national data sets (Midlife in the United States (MIDUS), Midlife in Japan (MIDJA)), which were produced by Carol D. Ryff of the University of Wisconsin-Madison, Shinobu Kitayam of the University of Michigan, Mayumi Karasawa of Tokyo Christian Woman's University, Hazel Markus of Stanford University, and Norito Kawakami of the University of Tokyo, Christopher Coe from the University of Wisconsin-Madison, US, and National Institute of Aging, US.</p> <p>4) Appointed professional consultants to provide advice to the students about</p>

学内・学外における
社会的活動等

- English communication in areas such as TOEIC, TOEFL, IELTS, international internships, and study abroad programs (April 2020–March 2021)
- 5) Received grant-in-aid for a research project from the Young Scholar Scholarship Awards at Rikkyo University in Japan (April 2020–March 2021) as the principal investigator for “Happiness, Emotion, and Health across Cultures 2.”
 - 6) Provided professional aid for students seeking to study abroad in the U.S, including:
 - a) A female Japanese student A, who was accepted as a transfer student (undergraduate level) into the Intercultural Communication program in the Department of Communicology at the University of Hawaii in Manoa, U.S.
 - b) A female Japanese student B, who was also accepted by the University of Hawaii in Manoa, U.S., and received the Hoakipa Scholarship. Through the Hoakipa program, I communicated with University of Hawaii International Student Advisor Mr. Vinnie Burns about students at Rikkyo University, thereby building our trust and professional communication. As a result, Mr. Burns asked to set up online lectures and seminars between the University of Hawaii at Manoa, U.S. and Rikkyo University in Japan.
 - c) A female Japanese student B, who declined to receive the Hoakipa Scholarship at the University of Hawaii in Manoa, U.S. due to COVID-19. However, she was accepted by the University of California, U.S.
 - d) One female U.S. student C, who asked me to prepare a recommendation letter for medical schools in the U.S. I submitted a recommendation letter to the American Medical College Application Service and as a result, she received favorable responses from Columbia University, the University of Michigan–Ann Arbor, and others.
 - e) One female Danish student D, who asked me to prepare a recommendation letter for the International Christian University (ICU) Graduate School Program (in the Intercultural Communication program) and scholarships.
 - f) One female Danish student D, who asked me to prepare a recommendation letter for the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) scholarship through the Embassy of Denmark in Japan.
 - g) One female Danish student D, who asked me to prepare a recommendation letter for the internship program at the Embassy of Denmark in Japan.
 - h) One female Japanese student D, who was accepted at the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan.

【Conference Members】

- 1) International Communication Association (ICA)
- 2) National Communication Association (NCA)
- 3) 日本社会学会
- 4) Hawaii Sociological Association (HSA)
- 5) 日本保健医療社会学会
- 6) America Sociological Association (ASA)
- 7) Society for the Study of Social Problems (SSSP)
- 8) 日本コミュニケーション学会

【Research Collaborations】

- 1) Cross-Cultural Health and Well-Being: Research Project Partners and Research Collaborators (米国ハワイ大学, 米国スタンフォード大学, 一橋大)

学内・学外における社会的活動等	<p>学, 早稲田大学)</p> <p>2) Midlife in the U.S. (MIDUS) and Midlife in Japan (MIDJA) Research Project Partner (米国ミシガン大学, 米国ウイスコンシン大学, 米国スタンフォード大学, 東京大学, 東京女子大学)</p> <p>3) Global Health Innovation Policy Program (GHIPP) Partner (政策研究大学院大学)</p> <p>4) Cross-Cultural Health and Well-Being and Environmental Studies (米国イーストウエストセンター)</p> <p>5) Social Capital Research Project Partner (米国ハーバード大学など)</p> <p>6) Self-Compassion, Mindfulness, and Well-Being Research Project Partner (Oxford University 英国オクスフォード大学など)</p>
-----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

氏名・専門領域	山田 恵子 ●スクールソーシャルワーク, 教育福祉問題研究
著書	<p>1) 増山均, 齋藤史夫, 山田恵子 (2021) 「鈴木道太の教育論と生活綴方論の展開—戦前期を中心にして—」 増山均編著『鈴木道太研究 教育・福祉・文化を架橋した先駆者』明誠書林.</p> <p>2) 山田恵子 (2021) 「鈴木道太における教育と福祉—「はみ出した教育」と福祉へのアプローチ—」 増山均編著『鈴木道太研究 教育・福祉・文化を架橋した先駆者』明誠書林.</p> <p>3) 山田恵子 (2021) 「児童福祉の開拓者としての鈴木道太—「キャロル女史の講義」ノートと児童相談所におけるケースワークの草分け—」 増山均編著『鈴木道太研究 教育・福祉・文化を架橋した先駆者』明誠書林.</p>
資料・研究ノート等	<p>1) 山田恵子 (2020) 「子どもの未来をつなぐスクールソーシャルワーク①—スクールソーシャルワークが必要とされる状況」『子どものしあわせ』831号, pp.50-53, 日本子どもを守る会.</p> <p>2) 山田恵子 (2020) 「子どもの未来をつなぐスクールソーシャルワーク②—スクールソーシャルワークと子どもの権利」『子どものしあわせ』833号, pp.48-51, 日本子どもを守る会.</p> <p>3) 山田恵子 (2020) 「子どもの未来をつなぐスクールソーシャルワーク③—スクールソーシャルワークの働きかけ」『子どものしあわせ』835号, pp.46-49, 日本子どもを守る会.</p> <p>4) 山田恵子 (2020) 「子どもの未来をつなぐスクールソーシャルワーク④—スクールソーシャルワーク実践のための方法」『子どものしあわせ』837号, pp.46-49, 日本子どもを守る会.</p> <p>5) 山田恵子 (2021) 「子どもの未来をつなぐスクールソーシャルワーク⑤—ソーシャルワークにおけるスクールソーシャルワークの役割」『子どものしあわせ』839号, pp.48-51, 日本子どもを守る会.</p> <p>6) 山田恵子 (2021) 「子どもの未来をつなぐスクールソーシャルワーク⑥—スクールソーシャルワークの可能性」『子どものしあわせ』841号, pp.60-63, 日本子どもを守る会.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 日本子どもを守る会編『子ども白書2020』子どもと家庭領域編集委員</p> <p>2) 日本子どもを守る会編『子どものしあわせ』編集委員</p> <p>3) 東京都江東区スクールソーシャルワーカースーパーバイザー</p> <p>【講演・研修】</p> <p>1) 山田恵子 (2020) 「学校・不登校・友達・子どもの権利」新宿区主催・NPO 法人非行克服支援センター「連続講座 思春期の子どもと向き合う」(東京・11月)</p>

氏名・専門領域	結城 俊哉 ●障害者福祉, ケア論, 福祉文化
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉 (2020) 「世界の戦争孤児問題—『失われた子どもたち』と戦争・紛争地域の子どもの現実—」 浅井春夫, 川満彰編『戦争孤児たちの戦後史1 (総論編)』吉川弘文館. 2) 結城俊哉 (2020) 「僕にとってのメント・モリ—死を想うこと—」 日本福祉文化学会・研究委員会編 (福祉文化ブックレットNo.1) 『私たちのメント・モリ=死を想う経験=』日本福祉文化学会. 3) 結城俊哉編著 (2021) 『共に生きるための障害福祉学入門』(第2刷) 大月書店. 4) 結城俊哉 (2021) 「貧困問題と精神保健」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『第2巻 現代の精神保健の課題と支援』中央法規出版.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉 (2020) 「ケアのエピファニーとは何か～発達障害者の理解と支援方法から考えたこと～」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第8号, pp.91-106 立教大学. 2) 結城俊哉 (2021) 「ケアにおける『手』の意味論～非接触 (With コロナ) 社会と手～」『コミュニティ福祉学部紀要』第23号, pp.53-69 立教大学.
資料・研究ノート等	結城俊哉 (2020) 「図書紹介：藤井克徳, 池上洋通, 石川満, 井上英夫編『いのちを選ばないで—やまゆり園事件が問う優生思想と人権』『リハビリテーション』第622号 pp.38-39 社会福祉法人鉄道身障者福祉教会.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本福祉文化学会理事 (研究委員会担当) 2) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会「調布市福祉人材育成センター運営委員会」委員長 3) NPO 法人日本障害者福祉協議会『すべての人の社会』編集委員 4) 茨城県守谷市福祉有償運送等運営協議会委員長 5) 社会福祉法人多摩棕櫚協会運営評議員 6) 社会福祉法人たまぶらねっと理事 7) 練馬区障害者自立支援施設等指定管理者選定小委員会委員 8) 板橋区発達障がい者支援センター運営委員長 <p>【講演・研修】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 結城俊哉 (2020) 「障害とは何かを考える」板橋区ココロ板橋 (開設準備) 職員研修 (東京・9月) 2) 結城俊哉 (2021) (まとめ) 「第4回ちょうふ福祉実践フォーラム：多様な人たちが生きていける社会とは～新型コロナウィルスがもたらした～」調布市社会福祉協議会 (東京・2月) 3) 結城俊哉 (2021) 「援助者のダークサイドについて考える＝障害者虐待問題・いのちの尊厳とは＝」調布市福祉人材育成センター (東京・3月) 4) 結城俊哉 (2021) 「ケア実践の中で研究的視点が育てる『臨床力』とは何か」2020年度やどかりの里研究所研究交流集会分科会報告 (埼玉・3月) 5) 結城俊哉 (2021) 「福祉実践の担い手にとって『学ぶ』ということ＝福祉職に何が問われているのだろうか＝」調布市福祉人材育成センター (東京・3月) 6) 結城俊哉 (2021) 「尊厳の保持と自立支援—高齢者虐待を考える—」調布市福祉人材育成センター (東京・3月)

氏名・専門領域	湯澤 直美 ●児童福祉, ジェンダー学, 貧困研究
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 船橋恵子, 湯澤直美, 魚住明代, 相馬直子 (2020) 「ひとり親家族支援政策の国際比較：特集にあたって」『大原社会問題研究所雑誌』No.746, pp.1-16 法政大学大原社会問題研究所. 2) 湯澤直美 (2020) 「日本のひとり親家族支援政策」『大原社会問題研究所雑誌』No.746, pp.79-101 法政大学大原社会問題研究所. 3) 湯澤直美 (2020) 「児童養護施設等経験者の高校卒業後の就学支援：学生支援ハウスようこそ取り組みから」『地域福祉研究』No.49, pp.35-46 日本生命済生会.

資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 宮本みち子, 末富芳, 萩原久美子, 岩永理恵, 湯澤直美 (2020)「座談会 子どもの貧困対策の動向と大綱の改正をめぐって」『貧困研究』No.24, pp.52-67 貧困研究会. 2) 竹信三恵子 (監修・湯澤直美) (2020)「ジェンダー視点から見たコロナ問題への政策対応」『貧困研究』No.25, pp.14-23 貧困研究会. 3) 特定非営利活動法人ピッコラーレ (監修・湯澤直美) (2020)『妊娠葛藤白書—にんしんSOS東京の現場から2015-2019』.
学内・学外における社会的活動等	<p>【社会的活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本学術会議連携会員 2) 日本学術会議「社会学委員会・社会福祉分科会」委員 3) 日本学術会議「社会学委員会・経済学合同委員会包摂的社会政策に関する多角的検討分科会」委員 4) 日本社会福祉学会副会長 5) 日本社会福祉系学会連合会長 6) 貧困研究会副代表 7) 日本子ども家庭福祉学会監事 8) 『貧困研究』(明石書店) 編集委員会委員 9) 内閣府「民間シェルター等による配偶者暴力被害者等の支援の充実のための調査研究事業」委員長 10) 全国社会福祉協議会「母子生活支援施設協議会」中央推薦協議委員、関東ブロック母子生活支援施設協議会顧問 11) 横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定推進会議委員 12) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会子ども・若者総合支援事業運営委員会委員長 13) 社会福祉法人「ベテスタ奉仕女母の家」評議員 14) 一般社団法人「彩の国子ども・若者支援ネットワーク」理事 15) 社会福祉法人「愛の家」評議員 16) 「特別区人事・厚生事務組合社会福祉事業団」評議員 17) 文部科学省「学びを通じたステップアップ支援促進事業」審査委員 18) 社会福祉法人慈愛会「2020年度社会福祉法人慈愛会中長期計画プロジェクト」アドバイザー